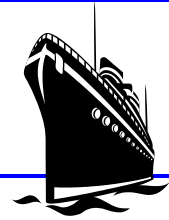


## MSI Marine News

トピックス



●海上保険の総合情報サイト **MARINEN@vi** もぜひ、ご覧ください。(https://www.ms-ins.com/marine\_navi/)

## 横浜港の新本牧ふ頭の整備について

近年、アジア諸国の目覚ましい発展に伴い日本の港湾の国際的地位は相対的に低下しつつありますが、国土交通省は日本の港湾の国際競争力の維持・強化を目指し、数港に重点投資をする「選択と集中」を掲げ、阪神港と京浜港を「国際コンテナ戦略港湾」として2010年に選定しました。京浜港は東京港、川崎港、横浜港の3港を指しますが、そのうちの横浜港において、2019年秋から新本牧ふ頭の整備という大きな事業が動き出します。本稿では現在予定されている整備事業の概要とその効果、課題についてご紹介します。

## 1. 横浜港の概要

横浜港は東京湾の北西側に位置し、150年以上の歴史を持つ日本の主要港湾の1つです。本牧ふ頭、大黒ふ頭等を中心に、港湾施設や貨物の保管や集配送等の機能を備えた物流施設が集積しており、コンテナに加え、完成自動車、石油類などあらゆる貨物を取り扱う総合物流港湾です。

京浜港3港は国際コンテナ戦略港湾としてそれぞれ特性を踏まえた機能分担がなされており、横浜港は今後、①自然水深を活かした大水深バースの整備による超大型コンテナ船の受入機能、②既存の基幹航路ネットワークの受入施設を活用しながら、世界各方面への定期航路を活かした輸送拠点機能を担うとともに、日本における国際トランシップ（注）拠点として北米航路を中心としたトランシップ機能の大きく2つを担うことが期待されています。

（注）本船が直接寄港する港から他の港に貨物を積み替え輸送することを指します。

## 2. 新本牧ふ頭の整備事業の概要

新本牧ふ頭はコンテナ船の大型化や貨物量増加に対応するため、大水深・高規格ターミナルと高度な流通加工機能を有するロジスティクス施設を兼ね備えた最新鋭の物流拠点として整備されます。

整備事業の対象は第1期地区と第2期地区に分かれており、2019年の事業化の対象は本牧ふ頭D突堤と接する第1期地区となります。第1期地区はコンテナターミナル直近にロジスティクス拠点を整備するもので、横浜市が施工主体となります。造成面積は約40ヘクタールで、ロジスティクス拠点とするためのインフラ等の基盤整備を行い、民間物流施設の集積化を目指します。

項目	規模	備考
物流施設等用地整備	約26ha	水道、鉄道等のインフラ整備を含む
緑地整備	約4ha	水道、鉄道等のインフラ整備を含む
道路整備	約10ha	幅20~30m、約3kmの道路を新設

（出典：横浜市公共事業評価委員会「事前評価 新本牧ふ頭第1期地区整備事業」）

第2期地区は第1期地区と接しコンテナターミナルとして使用される地区で、国が施工主体となって岸壁（水深18m〜）、防波堤等の整備を行います。造成面積は約100ヘクタールで事業期間は現在検討中です。



（出典：横浜市 国際・経済・港湾委員会「新本牧ふ頭第1期地区の事業化について」）

### 3. 新本牧ふ頭の整備による効果

#### (1) 基幹航路の維持拡大

新本牧ふ頭は、その水深（自然水深は20m）を活かし大型船に対応できる大水深・高規格ターミナルを整備することで、大型コンテナ船の寄港地として使用されることが期待されます。加えて、コンテナターミナルと最新鋭の高機能なロジスティクス施設を一体的に配置することで物流の効率化が図られ、これによりコンテナ貨物需要を創出し、基幹航路の維持拡大につなげることができると考えられます。

#### (2) 東京港のコンテナターミナル周辺の混雑緩和

前述のとおり、京浜3港はそれぞれ機能を分担しており、その特性を踏まえてお互いの能力を補完し合うことが求められています。現在東京港は日本最大のコンテナ取扱量を誇っていますが、施設容量340万TEUに対して2017年の取扱貨物量は450万TEUと、本来の処理能力を超えたコンテナ貨物を扱っている状況です。また、トラックがゲートに並び始めてからゲートアウトまでに要する時間が平均1時間を超過する等、ターミナル周辺の交通渋滞やトラックドライバーの長時間待機が深刻化しています。東京港と横浜港が連携し、新本牧ふ頭に東京港のコンテナターミナルとしての機能を一部移転・集約することにより、東京港のコンテナターミナルの安定的な運営に寄与し、東京港周辺の交通混雑の解決にも大きな役割を果たすと考えられます。

### 4. おわりに

港湾や海運、コンテナ船事業を取り巻く状況は日々変化する一方で、新しい港湾を作るには一般的に数十年という長い時間を要します。例えば、今年度に最後のターミナルである「MC-4」が完成予定の南本牧ふ頭は1990年に着工し、全4バースの完成までに約30年かかっています。新本牧ふ頭にも完成する頃には現在の情勢と全く異なっている可能性があり、日本の港湾の競争力強化のためにも新本牧ふ頭は早期完成に向け着実に整備を進めると同時に、開港時に世界の情勢や港湾を取り巻く環境を踏まえたふ頭となることが期待されます。

#### <参考文献一覧>

国土交通省HP <http://www.mlit.go.jp/index.html>

横浜市HP <https://www.city.yokohama.lg.jp/>

横浜市会HP <https://www.city.yokohama.lg.jp/shikai/>

海事プレス 2019年5月13日「新本牧への期待」

東京港埠頭株式会社 HP <http://www.tptc.co.jp/guide/advantage/metropolitan>

横浜港埠頭株式会社 HP <https://www.yokohamaport.co.jp/>

以上